

〈訂正〉

問題冊子 10 ページ 下段

問一 線 a・b のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線①「最初に取り入れられた作物は神にお供えされます」について、「人々は」を主語にして、解答らんに続くように書きかえなさい。

問三 X に当てはまる言葉を、次のア～エから選びなさい。

ア 流動的 イ 画一的 ウ 具体的 エ 組織的

問四 「祭」についての本文の説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 多くの祭では表面的に変化してもその精神は変わらない。

イ 日本で古くから行われている祭の数は他の国々より多い。

ウ 文化が似ていても、地域が異なれば祭も変わってくる。

エ 異文化を受け入れるかたちで祭が行われることがある。

問五 線②「地域の社会や文化のなかでの祭の意義」には、どのようなことがありますか。本文で説明されている「宗教的意義」以外、

の意義について、自分で考えてまとめなさい。

に }

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい

あなたは人と話をするとき、視線を合わせますか。視線を外して下を向いて、ぼそぼそとマイペースで話をしますか。

視線の向け方は、マナー本などにもよく出る話題のひとつです。相手の目を見すぎるのは失礼だといわれる一方で、面接を受ける時には、相手の目を見てしっかりと話を聞き、話をする時には鼻のあたりに注目しましょうなどと、事細かに書かれています。

視線を見る発達と比べると、こうした行動は不思議なことです。赤ちゃん時代には、目は自然に注目する対象であったのに、大人になったら①「目を見て話せ」とマニュアルにわざわざ書かれるのは、どういうことでしょうか。

大人になるにつれて、顔や視線を見る際に複雑な感情が伴うようになります。顔を見たり、顔を見せたりすることには感情が切り離せないのですが、その感情が複雑になっていくのです。生まれたばかりの赤ちゃんは、泣いたり怒ったりといった単純な感情の②噴出を見せるだけですが、やがて、感情を隠したりわざと見せて、③相手との関係の調整に感情を使うようになります。はにかみや恥じらい、わざと泣いてみせるとか、相手との関係を前提とした感情がくり出されます。さらに事態を複雑にしているのが、脳で感情に関わる④扁桃体の発達です。対人的な恐怖も伴うようになることも重要です。そしてそれだけでなく、成長するにつれてその文化固有のしきたりを獲得することも視線と大いに関係があるのです。

たとえば欧米人と比べると日本人は、視線を合わせることが少ないといわれています。同じ東洋人の中でも、⑤日本人の視線の取り方は特別とみなされるようです。「日本人は顔ではなくて、ネクタイを見ているん

だろう」と冗談交じりに語る中国人研究者もいます。

アイカメラで目の動きをしつかりと測定した実験からも、日本人の視線の⑥特異性は明らかになっています。顔写真を一つひとつ見せて、どのように観察するかをアイカメラで調べたのです。その結果、日本人は顔を記憶する時は、あまり目を見ないことがわかりました。顔を覚えようとして相手を見るとときには、日本人は相手の目から視線をそらし、少し下の口のあたりに注目したのです。対する欧米人は、顔を見る規則に則り、顔を全体で見ようとしていました。視線を合わせないことは日本人の礼儀で、それがしつかりと身についているのでしょうか。しかしこの見方は、顔を記憶するのが苦手な人の見方にも類似しています。ということは、日本人は一般的に、顔を覚えるのが苦手といえるのでしょうか？

その答えを⑦示唆する、別の研究があります。顔を覚える結果と矛盾しているようですが、相手が笑っているか怒っているかといった⑧表情を判断するときは、日本人は目の周りを見る傾向が強いそうです。A日本人は、顔を覚える時は目を見ずに、表情を区別する時には目を見るところ、矛盾した傾向があるのです。

この結果を⑨紐解くために、少々古い研究にさかのぼります。(中略)一九七〇年頃に流行った、⑩アメリカの発達心理学者アインズワースによる「愛着理論」による研究です。実験では、ひとつの部屋と協力者を使って、子どもを特定の状況に置き、その際の行動を調べています。

まずは知らない部屋に入り、お母さんと一緒に遊びます。やがて知らない女性が入ってきて、その後にお母さんが席を外すというシチュエーションをつくり出すのです。そこで出て行くお母さんにどう振る舞うかが、観察されるのです。

それに従うように、日本人が表情を見るときは視線の行く先は、目に集中します。それはB、目で示された小さな変化を一所懸命に検出しようとしているように思えます。

視線の行く先から、日本人はデリケートな感情の伝え合いを読み取っていることが証明されたといえます。それがなんと、生後七か月という小さな赤ちゃんでも習得しているのです。なんとも不思議なことですが、小さな頃から文化のシャワーをあびて、それが文化を形成していくともいえるのです。

視線の動きから、日本人特有の表情のやりとりの繊細さがわかりました。私たちはとても微妙な変化で表情を伝え合っていること、それをとっても小さい頃から身につけているのです。一方でそれは、非常に洗練化されているがために、とてもわかりにくいものになっていることは、自覚しておくべきです。他の文化に見られないほどに洗練化されて⑪細密化された感情のやり取りが、「空気を読め」とか、「空気が読めない」とか、そんな風にならずに責める方向にもつながっていくようです。でもそれはいわば特殊能力であり、⑫本来は「空気を読めないことが当たり前」、そんな風に考える必要があるのです。

(一部内容を省略し、表記を改めました)

【山口真美『自分の顔が好きですか?』】

注1 噴出：激しい勢いで出ること。

注2 扁桃体：脳の中で主に好き嫌いなどの感情をつかさどる部分。

注3 特異性：物事に備わっている特殊な性質。

注4 示唆：それとなく気づかせること。

注5 紐解く：ここでは「調べる」「解明する」という意味。

注6 洗練化：磨きをかけて整えること。

注7 細密化：きわめて細かいところまで行き届かせること。

問一 A・Bに当てはまる言葉を、次のア～オからそれぞれ選
びなさい。(同じ記号は二度使用しないこと。)

ア つまり イ たとえば ウ そのうえ
エ まるで オ たしかに

問二 線①『目を見て話せ』とマニュアルにわざわざ書かれる
のはなぜですか、その理由として最も適当なものを、次のア～エか
ら選びなさい。

ア 相手の目を見て話すのは人類の共通のマナーだから。
イ 相手の目を見ることが生物としての自然な行動だから。
ウ 相手の目を見て話すことをしない人が多くいるから。
エ 相手の目を見て話さないと子供っぽいと思われるから。

問三 線②「相手との関係の調整に感情を使う」ことの具体例と
して最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 大切な物をこわした友人に怒りをぶつける。
イ 周囲に心配してもらうために不機嫌を装う。
ウ 両親にほめてもらうために勉強をがんばる。
エ 相手をいい気分にするためにお世辞を言う。

問四 線③「日本人の視線の取り方は特別」とありますが、相手
の顔を覚える時の欧米人と日本人の視線の取り方の違いを説明し
た次の文の1・2に当てはまる言葉を、本文中からそれぞ
れ指定の字数でぬき出しなさい。

問七 線⑥「本来は『空気を読めないことが当たり前』とありま
すが、筆者がそのように考える理由について、解答らんに合うよう
に、本文中の言葉を用いて五十文字以内で説明しなさい。

問八 本文の表現についての説明として適当でないものを、次のア～エ
から選びなさい。

ア 日本人と欧米人の視線の取り方を比較することで、日本人独特の
視線の取り方の特徴を明らかにしている。

イ ささまざまな研究の成果を引用することで、自分の考えをより説得
力のあるものにしようとしている。

ウ 何度もうくり返し読者に問いかけを行うことで、テーマについての
読者の関心を引きつけようとしている。

エ 比喩表現を多く用いることで、難しい専門用語を一般の読者にも
わかりやすく伝える工夫をしている。

* 顔を覚える時に、欧米人が1(八字)のに対して、日本人は

あまり2(五字)。

問五 線④「表情を判断するときは、日本人は目の周りを見る傾
向が強いそうなのです」とありますが、なぜこのような傾向を持つ
ようになったと考えられますか。本文中の言葉を用いて二十字程度
で説明しなさい。

問六 線⑤「アメリカの発達心理学者アインズワースによる『愛
着理論』による研究」について

(1) この実験はどのような目的で行われたものですか。それを説明し
た次の文の1・2に当てはまる言葉を、本文中からそれぞ
れ指定の字数でぬき出しなさい。

* 1(七字) という状況に置かれた子どもの2(二字)を
観察するという目的。

(2) 筆者はどのようなことを示すためにこの実験を取り上げているの
ですか。最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 日本人が欧米人と比べて顔を記憶するのが苦手なわけではない
ことを読者に示すため。

イ 日本人の子どもが母親の視線の動きから感情を読み取っている
ことを読者に示すため。

ウ 日本人が幼い頃から欧米人と異なる基準の文化を持っているこ
とを読者に示すため。

エ 日本人と欧米人の視線の取り方の違いの原因が子育ての仕方に
あることを読者に示すため。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学六年生の陽子は、地域の卓球クラブ「チーム山吹」に所属している。そのコーチから、新メンバーで中学一年生の美月とダブルスのペアを組むように言われた。

昨年ライバル校の卓球部のキャプテンだった美月を元々、快く思っていないかった陽子は、コーチの指示を不満に思い、チームの練習に参加せずにいる。そんなある朝、陽子は、先輩の広海と公園へ向かうことになった。

「まさか広海先輩、すべり台でトレーニングしてるの？ 変なのー」

と言うと、広海先輩は口を左右に思い切り伸ばして、人差し指を立ててシースと言った。

「見せたいものがあるんだ。黙ってる」

「え、何」

広海先輩がそれっきり答えず、すべり台の陰からブランコの方角を見ているので、陽子は広海先輩の背中を見ることにした。こうやってすぐそばに立つと、ずいぶん背が高くなったんだな、と思う。陽子も百五十センチあって、クラスの女子では後ろから三番目なのだけれど、広海先輩は百七十センチ近くあるみたいで、顔の位置が全然違う。

「来た。つか、トイレの後ろに隠れたほうがよかったな。ここだとバレルかも。もう遅いけど」

ひとりごとを言いながら、広海先輩はしやがみこんだ。

「あ……」

陽子もしやがみかけたのだが、途中でストップしてしまった。来たの

「それで、結局自分は A のかもしれない、って冬休みの頃

に気がついたんだってさ。でも、なかなか決心がつかなくて、春になってやっとチーム山吹に来る気持ちになったって」

「そんな迷ってる感じじゃ、またやめちゃうんじゃない？」

陽子がそうつぶやくと、広海先輩が振り返った。

「あいつは、きっともうやめないよ。」

「どうして」

「一度やめて戻ってくるのって、すげー勇気いるんだ。オレのそばにもそういうヤツいたから、わかる」

「誰？」

「オレのアニキ。転校してきたとき、サッカー部に入ったけど、本当はずっと、また卓球をやりたいかったんだってさ。でも、一年半、それを言えなかったって。オレへの意地みたいなのがあって」

ふたりの間を、するりと風が吹き抜けていく。すでに太陽に熱せられて、暖まった空気だ。今日は相当暑くなるのかもしれない。

「だから、アニキが戻ってきたとき、ああ、飛鳥大洋はこれから一生卓球やるんだろうな、って思った。きっと美月もそうだけ」

「じゃあ、気に入らないことがあっても、もう『やめる』って二度と言わないかな」

「たぶんな」

陽子はじつと美月を見つめた。バックハンドの素振りを終えて、今度はフォアとバックを交互に打つ練習をしている。

運動神経抜群で、スポーツの天才ぶっていた美月。たいして頑張らなくても、あつという間に、どんな種目でもこなせるようになるんだ、と言っていたけれど――。

は、美月ではないか。白のびたびたのTシャツを着て、髪の毛をぎゅつとおだんごにして、上半身だけ見たら、バレリーナみたいだ。下はトレパンだけだ。

美月はブランコの横にあるベンチに陣取った。背中にしよっていたリユックをそこに置いて、なから縄跳びを取りだした。ぶんぶんぶん、跳び始める。最初は二重跳び、そのあと、ハヤブサ跳び、最後は三重跳びをやって、失敗したところで、リユックから今度はタオルを出して、顔をふいている。そして、次に取りだしたのは卓球のシェイクハンドのラケットだった。

シュッシュッシュ。まずはフォアハンドの素振り。続いてバックハンド。四回に一回はバックハンドスマッシュで、大きく振りぬいている。

① あいつさ、クラブに入部してから、毎日ずつとやってるんだ。ひとり朝練」

「え、毎日……」

「オレはストレッチだけだから、そんなに長い時間いないし、だいたいあいつ、無愛想だから、会っても『おはよ』くらいで終わりなんだけさ。あ、でも一度だけしゃべったな」

「え、何を」

「オレ、あいつに聞いたんだ。『おまえ、やめたんだろ。なんで卓球またやることにしたの』って。そしたら、言ってたよ。バレボールをやってみたけど、白いボールを打ち返すときに、なぜだか卓球の球を思い出して困った、って。それでバドミントンをやってみたら、ラケットを振るたびに、卓球のボールを打ち返すときの、コッソ、って小さくひびくあの感覚を思い出しちゃって、困ったんだって」

「ふうん……」

陽子はじつと見つめ続けた。

② 陰で、こんなにも努力しているじゃないの。負けず嫌いなところ、あたしと一緒にだ。

その日の夕方、陽子は練習場へ入るなり、すぐに二階へ上がっていった。早めに来た人たちが、一階でも二階でもばちばちと打ち合いをしている。コーチは窓際で柔軟体操をしていて、ミチル先輩は丸テーブルで、今日のメニューをノートに書きこんでいた。

「ミチル先輩」

陽子が声をかけると、ミチル先輩はぱつと顔を上げた。

「お、陽子。早いね」

「今日、ダブルスの練習ありますか」

「特にないけど、やりたかったら入れるよ」

「あ、はい、じゃあ」

ダブルス相手なんていないかのようにふるまってきた陽子が突然そんなことを言いだしたのに、ミチルは驚く様子もない。もしかしたら、広海先輩からけさの話を聞いていたのかもしれない。

「そしたら、最後の練習試合のとき、陽子と美月はコーチに見てもらおうようにするね。それでいい？」

「はい」

ミチルとコーチが目を合わせて、うれしそうに笑ったことに陽子は気づかないまま、階段を下りて、更衣室へ着替えに行った。

フットワーク、サーブ練習、苦手な部分の強化練習、いつものように過ぎて、いよいよ最後の練習試合タイムがやってきた。③ 陽子は心臓がどきどきしてきたのを感じた。自分はようやくやる気になったけど、

そういえば美月の考えを聞いてなかったことを思い出したのだ。あの人が「あたしはやらないよ」ときっぱり言い放つたらどうしよう。片想いみたいで、カッコ悪いなあ……。

「はい、じゃあ次は、練習試合タイム。いつものように試合したい相手に申し込んでね。ただし、陽子と美月は第一コートでダブルスね」

陽子は、美月の表情をそっと見ていた。彼女は一瞬「えっ」という顔をしたらけれど、そのあとは何も言わず第一コートへやってきた。

「よし、じゃあオレがひとりで相手するから、とりあえず打ち合ってみよう。お互い、初めてダブルス組んでどんなふうか、感触確かめてみてくれ」

前に立っていた美月がちらりと陽子の方に目を向ける。

「どうぞ」

陽子が言うのと、彼女はかすかにうなずいて、レシーブの構えをした。

陽子はそのななめ後ろで構える。美月のオレンジ色のTシャツが、大きな壁のように見える。今まで組んだミチルや望美よりも、彼女のほうが背は高い。

スツとコーチが短い下回転のサーブをフォアクロスに打った。美月はそれを低いツツツキでバックの奥の方へ押しこむ。コーチがふたたびツツツキで、バッククロスに打ち返してきたので、陽子はまわりこんで強い上回転をかけた。同級生が相手だったらこれでラリーは終わるけれども、もちろんコーチはこの球も返球してくる。それも角度をぐっとつけて、フォア側に。美月は見事に追いついて、完璧なフォームで真ん中に打ち込んだ。今度はコーチが軽く当ててくるようにして返す。陽子はラケットを速く振ることで、そのボールにスピードを与えた。コーチは軽く打ち返し、美月が強打する。コーチは台から二メートルくらい離れ

美月と交互に打つことをとっても喜んでいる――。

「終了！」

ミチルが声を張り上げる。あつという間に、二十分は過ぎた。このあとは、それぞれストレンツキをやって解散となる。

「④ どうだった？」

コーチがタオルで首のまわりをぬぐいながら、近づいてくる。陽子はちろつと美月を見た。美月もちろつとこちらを見る。

「コーチから見て、どうでした？」

陽子は質問を投げ返した。

「うん、すつげー合ってた。⑤ おまえら、実は前からどっかでこっそり練習してたんじゃないの？」

ぶんぶんと陽子は首を横に振った。気がつくとも美月もまったく同じことをしている。

「いいダブルスになりそうだな」

笑って、コーチは階段を上がっていった。残された陽子は、ふたたびちろつと美月を見た。目が合った。

一緒に組めてよかったかもしれない。これからよろしくね。

そう言えばいいのだろうけれど、言えないまま、陽子はその場でストレンツキを始めた。少し離れたところで、美月も足の裏側の筋肉を伸ばしている。

言葉には出せなかったけれど、言いたいことは通じたのかも。⑥ 陽子はそんな気がしていた。

【吉野万理子『チームみらい』】

て、ボールのスピードが落ちてきたところで、ドライブをかけてきた。コンパクトなフォームなのに、球には強い上回転がかかっていて、台の上で大きくはねる。それを、陽子は思い切り強く打つ。もつとコースをねらうつもりが、ど真ん中に入ってしまった。コーチは軽々とバックサイドに打ち返してくる。美月がまわりこんでいて思い切りスマッシュと見せかけて、すつとツツツキで落とす。

「おお、ナイスフェイント」

と、ほめる余裕を見せながら、コーチが前進してきて、ラケットをすうつと伸ばす。あ、これは浅いフェイント返した、と陽子が前へ一歩出たところで、コーチは手首を返して、コンパクトなバックハンドスマッシュを打った。そんなにスピードはなかったけれど、意表を突かれたのと、角度をつけられたせいで、陽子はおろろろとボールをラケットに当てることができただけだった。ぴーん、とボールは隣のコートに落ちていった。

「ナイスラリー」

ミチル先輩がそう言いながら、取りに行ってくれた。ぽん、と投げてくれたので、今度は陽子がサーブを打つ。練習なので、いちいちサインは出さなかったが、なんとなくBが湧いてきた。どんなサーブを打つても、美月はきつとうまく対応してくれる。

初めてだった。不思議だった。何も言葉を交わしていないのに、美月とどこか通じるところがある。彼女の打つ球が面白くて、それに対してコーチがどう返球するか楽しみにしている自分がいて、そしてその球をどこに打ちこもうか、わくわくしている自分もいる。

なんだろう。美月ってイヤなやつだと思ってたのに。関わりたくなかったのに。あたしの意志と関係なく、ラケットが、卓球シューズが、

注 シェイクハンド：握手する形で持つ卓球のラケットの種類の

一つ。この後に出てくるフォアハンド、バックハンド、スマッシュ、フォアクロス、ツツキ、ドライブ、フェイント等は卓球の打ち方を指す。

問一 線①「あいつさ、クラブに入部してから、毎日ずつとや

てるんだ。ひとり朝練」とありますが、広海は美月についてどのよう

に考えていますか。その説明として最も適当なものを、次のア

エから選びなさい。

ア 毎朝ひたむきに練習に取り組み続ける様子や悩んだ末に自分の意

志でチームへやってきた経緯から、美月の卓球に対する思いは本物

問二 ———— A に当てはまる言葉を自分で考えて答えなさい。

問三 ———— 線②「陰で、こんなにも努力しているじゃないの」とありますが、ここでの陽子の気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 本当はこっそり練習を重ねているのに、運動の天才ぶっていた美月に失望している。

イ 仲間を作らず毎朝たった一人で練習をする美月の孤独な姿に、自分を重ねている。

ウ 縄跳びを終えて何種類もの素振りを行う美月の練習量の多さに、おどろいている。

エ 人知れず毎日の朝練を続ける努力家という新たな一面を知り、美月を見直している。

問四 ———— 線③「陽子は心臓がどきどきしてきたのを感じた」とありますが、ここでの陽子の気持ちを四十五字以内で説明しなさい。

問五 ———— B に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 安心感

イ 競争心

ウ 依存心

エ 責任感

問六 ———— 線④「どうだった？」とありますが、ダブルスの練習を通して陽子が感じたことが簡潔に表現されている部分を本文中から三十字でぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問七 ———— 線⑤「おまえら、実は前からどっかでこっそり練習してたんじゃないの？」とありますが、ここでのコーチの気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 二人のダブルスがうまくかみ合っていたので、予想外のことにとまどっている。

イ 二人の息が合っていたことを冗談めかして伝え、二人の気持ちを盛り上げようとしている。

ウ 二人がダブルス練習をしてこなかったことは知っているが、今後は始めるようそれとなく伝えている。

エ 二人との試合は手ごたえがあつたので、二人の関係がどうなのかを確かめようとしている。

問八 ———— 線⑥「陽子はそんな気がしていた」とありますが、ここでの陽子の気持ちを「〜という気がした。」に続くように四十字以内で具体的に説明しなさい。

問九 本文の表現についての説明として、適当でないものを、次のア～エから選びなさい。

ア 公園では広海との会話を通して、陽子の気持ちが進んで変化していく様子が描かれている。

イ 公園では広海との会話の間の風の描写によって、話題が変わっていくことが暗示されている。

ウ 練習試合の場面では擬人法を用いることで、陽子の気持ちが進んでいない様子が効果的に表されている。

エ 練習試合の場面では短い文を多く重ねて述べることで、うち合いの様子がいきいきと描かれている。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

祭は本来、神に祈りを捧げたり神に感謝したりするために集団で行われる儀式でした。日本には現在でも、古くから行われている祭がたくさんあります。夏の京都の祭として有名な祇園祭は、今から一〇〇年以上前から行われています。現在では美しく装飾された山車が街を巡行する行事が中心ですが、もともとは疫病や悪霊のたたりを鎮めるために神に祈る祭でした。また秋には昔から各地で、その年に田畑で得られた収穫を神に感謝する祭が行われ、①最初に取り入れられた作物は神にお供えされます。

世界でも、それぞれの民族や宗教によって多様な祭が行われています。東南アジアの稲作文化圏では、日本と同様に稲作に関係する祭が多く、田植えや収穫の際に行われています。さまざまな宗教が世界各地に広まると、キリスト教のクリスマスや仏教の花祭りのように聖人の生まれた日などを祝うための祭も行われるようになりました。また、ある地域で行われていた祭が、他の民族や宗教の祭に取り入れられた例も数多くあります。キリスト教のカトリックの国々で行われている謝肉祭（カーニバル）は、古代ローマでキリスト教が普及する以前から行われていた^aノウコウ神の祭が起源です。

近代以降、西洋文明の広まりとともに世界中の文化や人々の暮らしが^Xになり、多くの伝統的な祭が失われました。そして残された祭も、かつての宗教的意義は薄れ、その姿を大きく変えてきました。しかし現在でも、②地域の社会や文化のなかでの祭の意義はたいへん大きいのです。そのことに気づいた人々が、いったんは失われた祭を^bフツカツさせようとする取り組みもさまざまな地域で行われています。

問一 ———— 線 a・b のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ———— 線①「最初に取り入れられた作物は神にお供えされます」について、「人々は」を主語にして、解答らんに続くように書きなさい。

問三 ———— X に当てはまる言葉を、次のア～エから選びなさい。

ア 流動的 イ 画一的 ウ 具体的 エ 組織的

問四 「祭」についての本文の説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 多くの祭では表面的に変化してもその精神は変わらない。

イ 日本で古くから行われている祭の数は他の国々より多い。

ウ 文化が似ていても、地域が異なれば祭も変わってくる。

エ 異文化を受け入れるかたちで祭が行われることがある。

問五 ———— 線②「地域の社会や文化のなかでの祭の意義」には、どのようなことがありますか。本文で説明されている「宗教的意義」以外の意義について、自分で考えてまとめなさい。

国語解答用紙

受験番号

氏 名

氏名

[illegible][illegible]

三			
問一	問二	問三	問五
a	人々は最初に		
		問四	
b			

		四	
問二		問一	
4	1	1	
		2	
	2		
5		3	
		4	
	3	5	